拓友 27

日本大学拓友会会報
生物資源科学部　国際地域開発学科
第27号　2004年5月発行

～新会長が就任、学科では学生教育に新たな取組開始～

―拓友会の充実と飛躍を期して―

拓友会会長
内　田　俊太郎

平成14年の総会において４代会長として大任を仰せつかりました内田俊太郎と申します。

学科設立67年に及ぶ歴史と、１万人を超える卒業生を輩出してきた輝かしい伝統をもつ拓友会において、皆様と一緒に活動出来ることを心から感謝申し上げます。

日本大学校友会目的に「校友会は会員相互の親睦と福利増進を図り、自立、自助の精神に則り、学校法人日本大学との共生組織体としての機能を発揮し、母校の興隆、発展に寄与することを目的とする」とあります。

その目的を達成するため拓友会では

(1)会報、会員名簿の発行管理
(2)学生の募集及び就職への支援
(3)教職員の教育、文化奨励等に対する助成
(4)国際交流事業への助成（宮崎賞）
(5)学生の学業、体育及び文化活動に対する助成（拓友賞）
(6)各種研究会等の開催
(7)会員の福利厚生等に関する事業

等を行い母校の発展に寄与してまいりました。

前近藤会長は新たな時代に対応して、「大学と共生組織体としての機能を発揮する」ため、拓友会の組織機能を改革され、同時に

＊校友会の目的の徹底
＊会員名簿の整備
＊会員相互の親睦を図る

等新たな基盤を確立されました。

このたび学科では、教育の充実と飛躍を期して新しい養成プログラムが設けられました。拓友会としても新たな基盤に立って、その「充実と飛躍を期して」重点的な取組をしてまいりたいと存じます。

誠に微力ではございますが、全力を尽くす所存ですので、会員および、準会員の皆様の積極的なご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げ、ご挨拶と致します。

総会報告

平成15年度拓友会総会報告

第1議題　平成14年度事業報告の件
(1)総会・懇親会開催　(2)幹事会開催
(3)名簿の整理　(4)「拓友会会報」の発行
(5)宮崎賞・拓友賞の授与
・宮崎賞：該当者なし（留学生だけでなく、海外交流学生を含めることに決定）
・拓友賞：和泉祐子さん
(6)卒業生への記念品授与以上承認

第2議題　平成14年度決算報告・監査報告の件
・収入決算額　3,577,222円
・支出決算額　1,490,155円
・次年度繰越額　2,087,067円

監査報告で、会費収入が減額しているので、事業全般の見直しを行うことが必要であるとの意見が述べられ、承認された。

第3議題　日本大学校友会の組織変更の件
日本大学校友会の組織変更について説明。新校友会制度において、会費収入の減に伴う、活動縮小が主たる問題となり、総会は毎年行うが、招待を伴う懇親会は役員改選期の総会時のみにする。拓友会会報の検討、ホームページの新設、連絡も郵便から、メーリングリストへ徐々に移行するなど、新しい方法の模索が提案され、承認された。

第4議題　平成15年度事業計画（案）の件
(1)総会・懇親会開催　(2)幹事会開催
(3)名簿の整理　(4)「拓友会会報」の発行
(5)宮崎賞・拓友賞の授与
・宮崎賞：該当者なし
・拓友賞：未　定
（卒業時点で決定：山田智英君に決定〔別掲〕）
(6)新事業の検討
・ホームページの活用・総会のあり方
・インターシップ制と学科協力の案が出され、討議の結果承認された。

第5議題　平成15年度予算（案）
（14年度繰越額を除く予算額）
・収入決算額　1,410,000円
・支出決算額　1,350,000円
・次年度繰越額　60,000円

以上、承認され総会を終了した。

新役員

平成14～16年度拓友会役員　（敬称略）

会長	内田俊太郎	常任幹事	平岡完勝 大津　隆	幹事長	谷川進	事務局長	早川　治
副会長・会長代行	谷地三知也		宮永政次郎 井上雅也 西木敏夫		他32名	事務局	
副会長	鈴木孝昌		小川吉四郎 幸田正人 石川治夫	監事	松沢成浩		緒方行廣 半澤和夫
〃	横塚　攻		長谷川勝男 徳江一恵 深田伊佐夫		山中　修		北野　収 倉内伸幸

学科の動向

充実と飛躍と!!　―学生教育に新しい動き―

■グループアドバイザー制度

学科では、少人数グループを対象とした学科教員によるアドバイザー制度を設けています。これは、新入生諸君と教員そして同級生同士のコミュニケーションをはかり、大学という新しい環境に早く馴染んで勉学のみならず日常的な学生生活を滞りなく遅れるよう、ざっくばらんなアドバイス時間と場とを積極的に提供しているものです。原則としては、毎週決まった曜日の昼休みに"ランチタイム・ミーティング"として、食事をしながら担当教員の研究室で10人程度の人数で行っています。

この制度は昨年から実施されましたが、とくに友達が出来たことや、入学したばかりでいろいろ分からないことを直接教員に尋ねられたことなど、学生からの感想でもおおむね積極的に評価する意見が多く寄せられています。これからもさらに改善されて定着してゆくものと思われます。

■開発協力ボランティア養成プログラム―夢を叶える―

このプログラムは、青年海外協力隊やNGOなど、卒業後に国際開発協力関係機関への参加に明確な意志をもつ学生に対して、現役での合格を目指して知識、技術、経験のキャリアアップを図ることを目的としています。

プログラムは大きく1～2年次の基礎課程と、3～4年次の専門課程に分れます。基礎課程では指定された重要科目の高いレベルでの履修が課せられ、専門課程では技術関係の学内実習や学外でのインターシップによる実習が中心となります。

今年はまだ2年目で、プログラム受講者はまだ卒業にいたっておりませんが、数年の後には大きな成果が期待されています。

■就職状況

国際地域開発学科の2003年度卒業生（2004年3月卒業）は146名でした。2004年1月段階での就職内定率は、84.4%（男子84.7%、女子83.8%）でした。本学科の人材育成目標の一つの成果ともいえる海外青年協力隊には、現役生4名、卒業生（2003年3月卒業）1名が合格しています。また、公務員には現役生2名、卒業生（2003年3月卒業）2名が合格しました。

2004年3月卒業の進路状況はまだ集計中のため、2002年度の場合を例にします。卒業生143名の進路決定状況のうち割合の多い方から見ると、卸・小売業15.3%、進学12.6%、自由業11.9%、サービス業5.6%、公務員4.2%、情報通信業4.2%、製造業4.2%、飲食店宿泊業2.8%、教育学習支援業2.8%、複合サービス事業（農協関係）2.8%、協力隊2.1%、建設業2.1%、医療・福祉2.1%などとなっています。その他運送業や林業にも就職しています。

入学状況

国際地域開発学科の平成16年度新入生は156名で、うち男子96名(61.5%)、女子が60名(38.5%)です。また、中国から留学生が1名在籍しています。出身高校の種別は、日大附属高校が57名(36.5%)、附属高校以外の出身者が99名(63.5%)です。公・私立別では、公立高校65名(41.7%、留学生1名を含む)、私立91名(58.3%)です。

都道府県別(出身校高校所在地)では、神奈川県出身者が45名ともっとも多く、ついで東京都の35名、3番目が栃木県の14名です。このほか、学生の出身都道府県は、北海道から長崎・熊本まで、30都道府県に及びます。

1年次クラスには、新入生156名に復学・再履修者13名が加わり、総数は169名となります。

新任・退任

〔新　任〕2003年度

中島　皐介教授　東京大学大学院を修了。農林水産省入省、草地試験場、(独)農業生物資源研究所に勤務、2003年同研究所を退職。資源作物学他を担当されます。

松本　礼史助教授　広島大学大学院を修了。広島大学大学院国際協力研究科助手、東亜大学総合人間・文化学部助教授。環境経済学他を担当されます。

黒田有希子副手　本学生物資源化学部生物環境工学科を卒業。趣味は旅行。

〔退　任〕

陳　仁端　教授　中国語、農業経済学他を担当。定年退職されました。

緒田原涓一教授　国際経済学他を担当。定年退職されました。

上原　秀樹教授　環境経済学を担当。明星大学へ遷られるため、退任されました。

〔新　任〕2004年度

水野　正己教授　京都大学大学院終了後、農水省入省、農業総合研究所に勤務。英国ケント大学大学院修了され、政策研究調査官で退官。国際文化論他を担当されます。

〔昇　格〕

増見　国弘先生　助教授から教授に昇格されました。

〔退　任〕

嘉数　啓　教授　国際経済学他を担当。琉球大学副学長になられたため、退任されました。

海外事情

南米ボリビア、シカシカ町より　平澤恵介

日本人移住地"サンファン"について紹介します。

2003年最終日、私達は50年前に移住して来られた日系人の方の家へ招待され、年越しをこの移住地サンファンで過ごすことになった。サンタクルスから車で124km、ヤパカニ川沿いに開かれたこの移住地は、1955年7月に16家族88名が入植したのを皮切りに、1992年6月まで53次にわたって移民の入植が続き、現在は約230世帯、750名ほどの日系人と、それを上回るボリビア人が暮らしている。日系人は長崎県(全体の46.4%)を初めとする九州出身者が多い。住民の殆どが農業に従事し、米、大豆、ポンカン等の柑橘類、そして養鶏、畜産も行っている。

私達が招待された家庭は、日系1世の方と子供さんの家族が住んでいる大きな家であった。夕方はレストランで中華をご馳走になった。その後、朝6時30分から放送している、紅白歌合戦の再放送を見ながら年の暮れを楽しんだ。庭先で花火をしていると、午前0時、突然まわりの家から大きな花火が上がり、爆竹の音が激しく鳴り始めた。年越しとクリスマスの恒例の行事らしく、各家庭が競うように大きな花火を上げていく。360度すべての方向から花火が上がる光景は感動的なものだった。

2004年1月1日、私は子供達の掛け声で目覚め、少し伸びた髪の毛が爆発している様子を見て子供達が笑っていた。急いで私は髪を直し、朝食の席に向かった。そこには大きなお餅が入ったお雑煮があり、そして地元で採れた胡瓜と茄子を使った漬物、まるで日本と同じか、それ以上のお正月であった。

その日の午後、私達はサンファンにある移民資料館に行った。1月1日に訪れたので開いているわけでもなく、家族の方に特別に開けてもらい説明を受けた。ここには入植初期から40余年にわたる(来年50周年)サンファンの歴史を、写真や古い道具等の展示で知ることができ、とても興味深いものだった。中でも農耕機械(脱穀機、精米機等々)は、当時全てを日本から持ってきたという。それらをフルに活用し、何もなかったこの土地で農業を行い、そして今の発展に至ったのである。お世話になった日系1世の方々の大きな手を見た時に、当時の苦労が感じられた。

拓　友　賞

山田智英君

拓友賞に和泉祐子さん（平成14年度）
山田智英君（平成15年度）の両名に授与。

毎年、成績優秀で、なおかつ拓友活動に積極的に協力してくれる卒業生に送られる拓友賞は、平成14年度卒業生の中から和泉祐子さん、平成15年度卒業生から山田智英君がそれぞれ受賞し、学科卒業証書伝達式の席上で表彰された。今後の拓友活動に卒業期を代表して積極的に行動してもらえるものと期待したい。

平成16年度総会ならびに懇親会のお知らせ

平成16年度の総会ならびに懇親会を下記の通り開催いたしますのでご案内いたします。なお、出席希望者はご面倒でも事務局までお知らせください。

記

開催年月：平成16年6月19日（土）
場　　所：日本大学生物資源科学部 湘南キャンパス
時　　間：「総　　会」午後3時から4時 本館13階 会議室
「懇 親 会」午後4時から6時
会　　費：お一人 3,000円
学生及び同伴者 2,000円（当日会場で徴収します）

参加希望者は、6月10日（木）までに拓友会事務局までお知らせください。

〒252 - 8510 神奈川県藤沢市亀井野1866
日本大学生物資源科学部内　拓友会事務局　早 川　治
TEL＆FAX. 0466 - 84 - 3457　（事務局直通）
E - メール takuyu@brs.nihon-u.ac.jp

INFORMATION

- 日本大学生物資源科学部のホームページがリニューアルされました。
  対象を限定せず、誰にでもみて頂けることを目指したものとなっています。
  URLは次の通りです。
  http://www.brs.nihon-u.ac.jp/
  拓友会のURLは次の通りです。
  http://www.brs.nihon-u.ac.jp/～takuyu/
- 会員のE･メールアドレスの登録
  最近はE･メールが一般化してきており、各自の情報のやり取りに利用されています。
  拓友会での情報伝達にE･メールを利用する事も考え、今回、拓友会Eメールアドレスにアクセスいただき、その後拓友会より返信メールを送付し会員のE･メールアドレスを登録させていただきます。
  拓友会E･メールアドレス takuyu@brs.nihon-u.ac.jp にアクセスお願い致します。
- 1万人の拓友の輪を広げよう !!
  (1)地方大会、懇親会の開催。
  (2)各種イベントの開催（同期会、ゼミOB会、恩師との食事会、ゴルフコンペ等）
  (3)住所不明の拓友会会員の情報及び慶弔情報
  その他盛りだくさんな計画･情報を拓友会事務局にご一報下さい。
  事務局から、会員情報、その他規定の範囲内で皆様の活動を応援します。

【編集後記】　退職後、夢であった海辺の暮らしを実現すべく、島へ移住しました。秋から冬の間は、家周辺の鬱蒼たる雑木林に入り、間引き･枝打ち･下草刈などに明け暮れ、春先からは一部を開墾しました。今、そこには秋に播いたクローバーの白い花が咲き誇り、100本ほど植えた苗木も次々と花を咲かせています。梅は腰ほどの高さでしかないのに実さえ付けてくれました。間もなく釣りのシーズンとなります。魚に誘われ、生命力の強靭さを見せつけている雑草との格闘も、しばらくは放棄することになるでしょう。そうした日々の暮らしを離れ、編集会議へ出席のため上京、2年ぶりに東京の空気に触れました。そのリズム･匂い･人波に疲れはしましたが、新鮮な刺激も受けました。藤沢キャンパスの緑の中で、談笑しながら行きかう学生諸君を眺めていると、若かりし自分達の姿が浮かんできました。国際地域開発学科への女子入学者数が、昨年度初めて男子学生を上回ったとのこと。かつては想像もできなかったことです。

時は過ぎ行くもの、時代も人も変わるもの、とはいえ変わらぬもの、変えてはならぬものがあるのも事実。拓友の人生もまた、さまざまに違いありません。内田新会長の抱負や、ボリビアからの報告などの原稿を読みながら、そうした思いに駆られました。

発　行：日本大学拓友会
編　集：広報編集委員会 委員長　平 岡 完 勝
事務局：日本大学生物資源科学部
国際地域開発学科内
住　所：〒252-8510 神奈川県藤沢市亀井野1866
TEL＆FAX.0466-84-3457
印　刷：Basic Print